新潟県租税教育推進協議会長賞　佳作

# 『税が果たす社会の役割』

新潟県立三条高等学校　一年　船久保（ふなくぼ）　未来（みく）

中学生の頃、私は教科書の裏に書いてある、「この教科書は税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」という言葉を軽く受けとめていた。小学校の教科書にも書いてあり、物を大切にすることは当たり前だから気にすることもなかった。なぜ、税金によって若い人たちが使う教科書が無償になるのか、税金が果たす社会の役割について今一度考えてみたい。

高校生になりたくさんの変化があった。教科書は有料で買わなければならないこと、学校まで無料で乗せてくれるスクールバスがないこと、などだ。今まで当たり前だと思っていたことが、実は裏で税金が大きく加わっていたとに気づかされた。そこで私は身の回りにある税金について興味をもった。調べてみると税金があることで救急車を無料で呼べ、ゴミ処理を行ってもらえ、災害の復旧作業に医療費や教科書。何げなく暮らしている日常の中で私たちはいつも毎日、税金に支えられている。しかし、こんなにも税金に助けてもらっていたら国民が払う税金はものすごい額になるのではと心配になる。そこで日本と世界の所得に対してどれだけの税金を負担しているのかを示した税負担率を比較すると、日本は四十八％に対し、同じ先進国であるアメリカは約三十二％だが、ドイツは約五十五％スウェーデン約五十六％、フランスは約六十七％であった。この結果から日本は比較的税負担率は低いと思えるが、高齢化が進んだ日本の未来は税負担が大きくなっているかもしれない。だから国民一人一人が今責任をもって税を納め、社会保障制度を充実させ、だれも苦しむ思いをすることのない日本にしたい。

税について改めて考えてみると、「税は国民の暮らしを豊かにする土台」のようなものだと感じた。税がなければ道路もなく、下水道もなく、災害復旧や社会保障さえもなくなる。つまり税は国民を支えていたのである。今こうして不自由なく暮らせているのは、過去に税金を納めていたたくさんの人がいたからであり、それにより昔と比べて社会が大いに発展し、豊かになったと思う。その税金で使うことができる教科書や建物、道具や暮らしを大切にすること、受けついでいくことの意味を知ることができた。

だから私は大人になったら日本国民の一員として国にきちんと税を納められる人になりたい。今のためにも、そして未来を生きる全ての人のためにも「暮らしを豊かにする土台」をつくりたいと思う。税を納めることで笑顔が増える、豊かな社会になるのだ。